

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2019』にてご確認ください。
  - ・ p. 4～5→学年暦
  - ・ p. 24～29→通信教育部カレンダー
  - ・ p. 46～49→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
  - ・ p. 50～52→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

## 1 / 27 ～ 3 / 15 の追加・変更点

- 科目修了試験会場変更（2/29山形） ※ p. 17参照  
（変更前）山交ホール → （変更後）山形テルサ

## 「TFU オンデマンド」の使用停止期間について

- 下記の期間、オンデマンド・スクーリングなど、すべての「TFU オンデマンド」の機能が使用できません（詳細は本冊子 p. 43参照）。  
3/19 正午 ～ 3/30 正午

## スクーリング等来校時の体調管理について

- ・ 膝掛け等があると便利です（教室内は足元が冷えやすいです）。
- ・ 教室中程の席がお勧めです（出入口、窓際付近は冷えやすいです）。
- ・ 咳症状がある場合、マスク着用をお願いします。
- ・ 休憩時間毎のうがいや水分補給もお勧めです。
- ・ 手の消毒液をご使用ください（各階廊下等に設置）。
- ・ インフルエンザ罹患時について、本冊子 p. 41参照。

# 心理学の実験・講義を 受けるにあたって

教員MESSAGE

助教 柴田 理瑛

皆様がこの文章を読む頃には、まだ心理学のスクーリングやレポート課題をあまり受けていない方もいらっしゃるでしょう。このように幅広い読者を対象として文章を書くのは中々ハードルが高いものです。そこで、思い切って、私が心理学のレポートや論文を書くときにいつも気を付けていることを記すことにします。きっと、私以外の授業をまとめる時にもいくらか参考になるはずですよ。

## 独立変数と従属変数

心理学の研究では、ある特定の環境（刺激：独立変数）で、どのように心が働くのかを明らかにしようとしています。そうはいっても心を直接見ることはできませんから、心のはたらきと非常に強い関係がある行動（反応：従属変数）を観察することで、特定の環境における心のはたらきを明らかにしようとするわけです。たとえば、「矢羽の長さが錯視量（見た目の長さ）に与える影響」というタイトルであれば、矢羽の長さ（独立変数）に従って錯視量（従属変数）がどのように変化するかを測定し、錯視量の変化から錯視を生み出す心のはたらきを明らかにしようとしていることが分かります。言い換えると、心理学の研究では、**タイトルからその研究の独立変数と従属変数が読み取れる**、ということでもあります。

心理学実験のスクーリングに参加されると、授業の冒頭で資料が配布されると思います。配布資料を見たときに、タイトルをみただけで独立変数と従属変数が頭にイメージできるようになったり、タイトルに独立変数と

従属変数のどちらかが不足していても全体をざっと見て自分で補えるようになりますと、その後の実習が非常にスムーズになるでしょう。

## 実験・調査を行う前に

---

心理学に関する実験（調査）を行うにあたって、実験を行う実験者（調査者）と実験を受ける実験参加者（調査対象者）が必要になります。そのほか実験を行うための装置や調査であれば質問紙なども必要でしょう。実験者や実験参加者、装置や質問紙がそろったとしても、実験者による教示がなければ、実験参加者全員から等質なデータを得ることはできません。教示、すなわち実験者による実験参加者への明確でシンプルな指示がなければ、実験は成功しないのです。たとえば、ある実験を行うとき実験参加者に「〇〇課題を遂行せよ」とだけ教示するとします。この場合、実験参加者の反応は、回答のスピードは速いが誤答だらけ、正答は多いが回答のスピードが遅いといったように、大きく分けて2つの異なるデータが得られることでしょう。これでは実験でもうけた条件（独立変数）以外の条件（回答のスピードを優先するか正答率を優先するか）が実験参加者の反応（従属変数）に影響を与えてしまいます。このようなことをできるだけ避けるためには、すべての実験参加者に対して明確でシンプルな教示を同様に与えることが必要です。この場合には、「できるだけ速く正確に〇〇課題を遂行せよ」というように教示するとよいです。

## 実験・調査中

---

まずは実験参加者の心構えからお話ししましょう。言うまでもありませんが、決していい加減に取り組んではいけません。また、寝不足の場合、非常にデータが乱れたり、ひどい場合には実験中に眠ってしまったりして

データが取れないことがあります。体調を整え、十分な睡眠をとって実験に臨みましょう。それから、教示を聞いたあとに勝手に仮説を推測し、「〇〇な結果を出してみよう」といった意図を持つのもやめましょう。目の前に現れる刺激や質問項目に対して真っ白な心で毎回新鮮な気持ちで臨むことが必要です。単調な実験では同じような刺激が延々と続く場合がありますが、慣れてきたからといって適当に判断をしないようにしましょう。

実験者の心構えとして最も重要なことは、後に結果の分析に使用するデータを毎回正確に記録することです。実験者あるいは実験参加者として気づいた点なども記録しておくといいでしょう。講義でも言っていますが、そのときは覚えていたとしても人はすぐに忘れてしまいます。主観的で質的なデータは客観的で量的なデータよりも信頼性に欠けますが、質的データをきちんと記録に残すことで量的データが質的データに裏づけられ、より質の高いレポートが作成されるのです。

## レポートの作成

---

心理学の論文や実験レポートでは、「目的、方法、結果、考察」という4つの基本項目によって構成されます。この4点について全体の流れ（ストーリー）が一貫していることが求められます。目的を達成するために必要な方法と方法に記述されている実験の手法にズレがあったり、目的で明らかにしたい内容と考察で主張している内容が全く別の内容であったりしてはいけません。実験スクリーニングでは、目的や方法の部分は配布される資料に既に印刷してあることが多いと思いますが、かえって考察から書き出すことが多く、しばしば目的と考察の内容にズレがあるように思われます。

このほかレポートを書く際には、各パラグラフ（段落）の分量にも気を

つけてみましょう。このことはレポート課題においても当てはまります。あるレポート課題で「〇〇と△△について述べよ」といったような設問がある場合に、「〇〇」については1ページ半も論述があるのに対し、「△△」については半ページしかない、というようなレポートは、非常に構成が悪い印象を受けます。もう少し具体的に言うと、「〇〇」については良く調べてあるが、「△△」についてはあまり調べられていないな、というような評価もされてしまうでしょう。このように、レポートを作成する上では各まとまり（目的、方法、結果、考察や段落）の整合性と一貫性、分量といったポイントが非常に重要です。

## 最後に

---

いかがでしょうか？心理学関連のレポートや授業への参加に対するリアクタンスが少しでも低くなることを期待しています。

### 参考文献

日本心理学会、認定心理士資格認定委員会（編）（2015）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 公益社団法人 日本心理学会  
pp xi~xviii